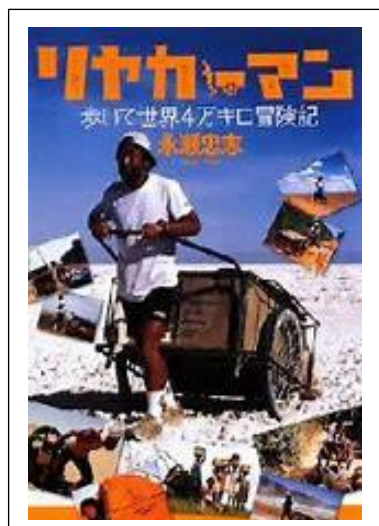


長い距離を歩いた人 リヤカーマン

歩いて世界4万キロ以上 永瀬忠志

八柳 修之



長い距離を歩いた人、検索していたら長瀬忠志さんという人が、なんとリヤカーを引いて世界を股に4万km以上も歩いたことを知った。早速、藤沢の図書館に申し込んだが、藤沢には置いていないという。大和、茅ヶ崎の図書館にはあるというので申し込み3週間ほどして届いた。内容が分からずタイトルで申し込んだ。届いた本は児童向けであったが、旅行した地域、距離が分かればよいと思った。永瀬さんは、アフリカ、南米など行き先ごとに多数の本を出しているの、関心のある方は図書館で申し込み借りてください。また、永瀬さんはユーチューバーでもあるようだ。以下、学研社本をもとに摘記した。

略歴：1956年（昭和31年）2月15日、島根県出雲市生まれ。1974年（昭和49年）3月、県立出雲工業高校卒、1978年（昭和53年）3月、大阪産業大学工学部機械工学科卒業 身長：173cm 体重：82kg

2008年11月 初版学習研究社 リヤカーを引いて、41年間で約4万km以上を踏破。2005年、植村直己賞受賞

「生い立ち」島根県出雲市の農家に生まれる。小学校2年のときに子供用の自転車を買ってもらった。4年生の時上級生に誘われ地区を一周、20km位の距離、初めて見る風景、そこに暮らす人たち、それから自転車に乗って20km、30kmくらい離れた町や村へ行った。中学生、高校生になっても続いた。高3のとき、友達と二人で、大阪まで3日かかって行った。大学1年（18才）、夏休み、島根から日本海側を遡り青森へ、フェリーで北海道へ道内を一周して本州太平洋側、四国、九州佐多岬から島根に戻った。**距離は7,500m、50日**かかった。

地図を見ると**日本縦断は約3,200km**。日本一周の半以下だ。歩くことはできないか。歩くとなると問題は荷物だ。リヤカーだ。宗谷岬に近い猿払村でお世話になった人に電話し中古のリヤカーを調達、再び日本縦断の旅へ。日本の中央部を苦戦して歩いて佐多岬に着いたのは出発してから**75日目**。次は世界だ。

1978～79年（22才）：オーストラリア大陸横断 4200 km。

旅をするにはお金がいる。大学3年4年の時はアルバイトして70万円貯めた。世界地図を見て、オーストラリアなら行けると思った。大学は卒業したが、就職せずに、初めて海外へ。出発地はシドニー、オーストラリア大陸を横断して西海岸のパースまで、100日間、**4,200 km**、途中にはナラーバー平原（半砂漠地帯）、しっかりとしたリヤカーを調達、「田吾作1号」、あらかじめ空輸。オーストラリアは真夏。気温54度のときもあり、水は風呂の湯のように熱くなっていた。

1982～83年（26～27歳）：アフリカ大陸横断 6700 km



田吾作2号」を引いて、アフリカ東海岸ケニアのモンバサから西海岸カメルーンのドアラまで赤道地帯を横断する。さらにサハラ砂漠を縦断し地中海岸のアルジェリアに向かう計画だったが、ナイジェリア北部のカノでリヤカーごと荷物一式を盗まれた。216日目に断念し帰国する。貴重品袋にパスポート、300ドルとケニアから日本までの航空券のみ。幸いめぐり合った日本人からナイジェリアからケニアまでの航空券代を借りた。帰国後、高校の教師免許を取得していたので、29歳から4年間、大阪の工業高校の教師をして300万円貯金。33才、退職。6年後、アフリカへやり直しの旅へ。

【携行品】 田吾作4号 リヤカー（幅 820 mm×長さ 1210mm×高さ 450 mm）特製

リヤカー部品、修理工具、エアポンプ1個、反射テープ4巻、鍵6個、衣装箱7個（温度計、乾電池、ポリ袋、ポリタンク（水入れ用）、コンロ、鍋、懐中電灯、洗面用具、ペン、日記帳、薬、浄水器、ガーゼ、帽子、シャツ、短パン、ジャージ、レインウエア、テント、マット、寝袋、レトルト食品、缶詰、コーヒー、砂糖、味噌汁、ふりかけ、昆布、靴5足、ビタミン剤、カメラ、三脚、地図（ミシェランの道路地図を使っているようだ）、ガイドブック、貴重品：現金、パスポート、航空券

この間、1987年（31才）韓国横断、釜山からソウルまで466 km。11日間。

1988年（32才）スリランカ横断、西海岸コロomboから東海岸ポッピルまで360 km、9日間。

1988～89年（32才）台湾横断、北部のキールンから南部のタイナンまで536 km、14日間。

1989年～90年（33～34才）アフリカ大陸横断・サハラ砂漠縦断、11,000 km～フランス・パリまで376日間



アフリカ大陸横断は前回、ナイジェリアのカノまで達成しているが、永瀬はケニア東海岸のモンバサからやり直す。サバナではキリン、シマウマ、カバ、象、バファローと出会った。道路が水で溢れたときもあった。

4カ月後、中央アフリカの首都バンギに着いた。マラリア罹る。幸い日本から井戸を掘り来ていた人の世話になる。227日目、ナイジェリアのカノに着く。新しい気分でサハラ砂漠へ。ニジェールに入国するとラクダがいた。ニジェールとアルジェリアの国境付近は道がない。1 kmごとにある目

印あるだけ。ニジェールでは目印としてドラム缶、アルジェリアではコンクリートの柱が立っているだけ。砂が柔らかくなると車輪は砂にはまり込み進まない。100m進むのに20分もかかった。10日に一回くらい砂嵐があった。地中海沿岸のアルジェに到着。地中海をフェリーで渡り、マルセイユ、パリの凱旋門に着いたのは376日目、11,000 kmだった。（写真は本人撮影）

1991年（35才）ジャワ島横断 253 km 成らず。

西部のジャカルタから東部のスラバヤまで約800 kmを歩く予定だったが、7日目にチレボンの手前5 km辺りで2人の男にナイフで脅されてお金の一部を盗まれ、待ち伏せされるようになったため断念する。

1995年（39才）マレー半島（マレーシア）横断、408 km 西海岸のクアラスランゴールから東海岸クアンタンまで11日間。

1996年（40才）南インド横断 562 km 東海岸パランギパタイから西海岸パイプーアまで18日間。

1997年（40～41才）パラワン島（フィリピン）縦断 414 km 北部のタイタイから南部のバタラザまで11日

1998年（42才）モンゴル縦断 864 km 北部のスフバートルから南部のグランザドガまで25日間。

1999年（43才）タイ北部横断 596 km 東部のナンプーンから西部のメーサムレップまで7日間。

2000年（44才）タクラマカン砂漠縦断 590 km 北部のルンタイから南部のミンフンまで11日間。

2001年（45才）紀伊半島横断 155 km 大阪府堺市から伊勢神宮まで5日間

2001年（45才）カラハリ砂漠（アフリカ・ボツアナ）縦断 591 km 南部のカニエから北部のハンツイまで14日間。

2003～04年（47～48才）南アメリカ大陸縦断 8,800 km 北海岸ベネズエラのプエルトラクルスから、ブラジル、ボリビア、チリ、南米最南端の町アルゼンチンのウスアイアまで、266日間

南アメリカでは、今までの旅で出会わなかった動物に出会った。ベネズエラではアルマジロ、ブラジルではア

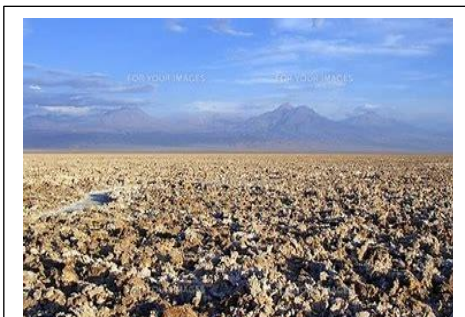
ナコンダ（直径 25 cm、長さ 8m）、幸い出会わなかったがオンサ（ジャガー）いるアマゾンのカレイロという町の人たちに、「この先にオンサがいて人を襲う」と言われて、オンサがいる区間 580 km はアマゾン川の支流を通る客船に乗った。この区間は歩かず悔いが残った。ボリビアではワニ、手の大きさほどある毒蜘蛛、タランチュラ。アルゼンチン南部ではマゼランペンギンの群れ、ゾウアザラシ、オタリア（アシカ科）、

2004 年（48 才）沖縄島一周 312 km 那覇市から 8 日間で一周 この時点で今までの歩き旅の総距離は 40,107 km となり地球一周 4 万 km に到達した。

2005 年（49 才）日本縦断 3,000 km 北海道北端宗谷岬から九州南端佐多岬まで、30 年ぶりに日本列島の中央部を歩く。同年 7 月、小学校 2 年（8 才）となる長男と磐梯高原で落ちあい 5 日間、25 km くらいを歩いた。歩く姿を間近に生で子供に見せられたことが嬉しかった。この旅が終わってから 6 カ月後、植村直己冒険賞の受賞者に決まったという知らせがあった。

2006 年（50 才）アマゾン縦断 900 km 2003～04 年、南アメリカ横断の際、オンサが出るといわれ船に乗った区間、トラックに乗った区間が心残りとなり、3 年後、再びアマゾンへ行った。マナウスからポルト・ベリヨまで歩いた。今回はジャガー対策として、熊よけホーン、サイレン、スプレー、ベルの道具を用意した。（そんなの対策になるのかなあ）確かにオンサの姿は見たが 41 日目に無事、前回未走破区間を歩き南アメリカ縦断を完歩した。

2007 年（51 才）アタカマ砂漠（チリ）アンデス山脈横断 975 km 太平洋岸チリのアントファガスタからアルゼンチンのサルタ・ヘネラルグエメスまで 35 日間、これまでの旅行で最悪。



35 日分の食糧と 60 l の水と食料を積んで、チリ北部の太平洋岸の町アントファガスタを出発し、西から東へアタカマ砂漠を横断。さらに東へ進み、その先にあるアンデス山脈を越え、4 年前南アメリカ大陸を横断したとき通った町、サルタ・ヘネラルグエメスをゴールとする。一日に 30 km 歩くとすると 34 日間、一時間に 5 km、一日に 8 時間歩けば 40 km の計算だが、途中、アタカマ塩湖は岩塩の塊。その先のアンデス山脈は標高 4,000m を超える峠である。アタカマ砂漠は雨が殆ど降らず、「地球上で最も乾燥している土地」といわれている。空は青く雲一つない。地面は乾いた砂で草一つない、温度計は 46 度。夜は日によっては零度、日焼けで鼻や耳の皮はめくれ、腕には水膨れが出来た。350 km を 10 日間で歩くとアタカマ塩湖、水はなく岩塩、塩のかたまりでデコボコしている。高さが 10 cm～30 cm のデコボコ。アタカマ塩湖の規模は東西約 50 km、南北約 90 km、面積は琵琶湖の 5 個分。距離は 50 km。ハンマーで岩塩を砕いて前進、4 枚の板を敷いて進む。気が遠

くなる話だ、一日に歩いた距離 6 km、6 l の水を飲んだ。自動車のタイヤ跡を見つけ、久しぶりで町のホテルに泊まった。町を出てからアンデス山脈、山脈を超えるためには標高 4000m 以上の峠を 5 つ越えなければならなかった。高山病に罹った。二日後、一つ目の峠（4,400m）を超えた。高地に身体が順応してきた。二つ目の峠（4,496m）三つ目の峠（4,392m）、50 歩歩いて立ち止まる。息を整えてまた 50 歩進む。四つ目の峠は、この旅で最も高い峠、50 歩歩いて立ち止まり息を整えて、50 歩また進む。五つ目（4,060m）を下ると長い下り坂。出発してから 35 日目で、目的地、目的地サルタ・ヘネラル・グエメスに到着。永瀬にはこれまでの挑戦で最もきつく、最も印象に残る旅であったようで、著書の中で多くの紙幅をさいている。（写真はいずれも本人撮影）

2008 年 (52 才) ボルネオ島横断 521 km

2010 年 (54 才) ナミブ砂漠縦断 761km

2014 年 (58 才) ラオス北部縦断 311 km

2015 年 (59 才) デスヴァーレ (アメリカ・ネバダ州 死の谷) 縦断 183 km

2016 年 (60 才) ロンボック島一周 218 km



「余談」私はアルゼンチン駐在中、チリの海岸都市アントファガスタから土漠を車でアタカマ塩湖の手前にあるカラマのチキカマタ銅山（チリ銅開発公社：世界最大の露天掘りの鉱山）へ行ったことがある。銅山の本部は土漠の中のオアシスで緑もあり従業員用 18 ホールのゴルフ場もあった。所長の名はベンケイ、日本人受けすると自ら言っていた。アントファガスタは海軍基地もある港町、銅鉱石の積出港となっている。石炭火力の発電所を造りチキカマタまで送電し精錬するという計画があったが、どうなったであろうか。

帰りはアントファガスタまで社有のヘリに乗せてもらった。

サルタ・ヘネラル・グエメスへは 1983 年 3 月、家族で冬休みに行っサルタはサルタ州の州都。ヘネラル・グエメスとは白人に最後まで抵抗したインデオの統領の名で大きな銅像があった。日本の小学唱歌にもなっているフォルクローレ「花まつり」はウマワケー ニヨ（ウマワカの人）というのが原曲。アルマジロをくり抜いたチャランゴという楽器演奏し、輪になって踊る。

サルタとチリのアントファガスタとを結ぶ鉄道、全長 940 kmがある。

1948 年開通、工事に 27 年もかかった。国境を超える鉄道は貨物（不定期）のみ。アルゼンチン側は国境の町、サンアントニオ・デ・コブレスまで不定期に観光列車がある。海拔 4,200m にある鉄橋（写真下）は観光スポットとなっており、乗客の高山対策として酸素ボンベが配置され看護婦が同乗していた。（写真はいずれも Wikipedia 無料画像） 以上